

《原 著》

## BMIPP 心筋シンチグラフィの初期像と後期像を用いた 急性心筋梗塞の治療効果判定について

長 慎一\*      阿部 正宏\*      飯野 均\*      塩原 英仁\*  
森崎 倫彦\*      三津山勇人\*      藤縄 学\*      栗原 正人\*  
山科 章\*\*

要旨〔目的〕急性心筋梗塞例で認められる BMIPP 初期像と後期像の不一致 (discordance) の臨床的価値を検討した。〔方法〕初回急性心筋梗塞 91 例に BMIPP 心筋シンチ (平均 6 病日) を, 1 か月と 6 か月に  $^{99m}\text{Tc}$ -MIBI による QGS を施行した。〔結果〕Discordance は 51% に出現した。QGS から算出した 1 か月と 6 か月の左室容積を比較検討したが, Washout 群は 1 か月および 6 か月共に No discordance (ND) 群や Fill in 群に比し有意に小であり, かつ左室の拡大を認めなかった。ND 群は拡大を認めた。Fill in 群では 1 か月の左室容積は Washout 群に比し有意に大であったが, 拡大は認められなかった。〔結論〕Discordance の有無や形式により慢性期の心機能は異なり, 心筋梗塞の亜急性期 BMIPP 心筋シンチで認められる discordance は, 慢性期心機能を推定する有用な指標である。

(核医学 40: 431-437, 2003)